

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700426		
法人名	医療法人社団 真友会		
事業所名	グループホーム「けやき」		
所在地	宮城県黒川郡大和町吉田字新要害10番地		
自己評価作成日	平成29年9月21日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月 8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「わたしたちは『自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり』をめざします」を法人理念に掲げて、入居されている方の介護度が重度化してきても、それぞれの方が「出来ること」を日々の生活の中で継続して行えるよう配慮した関わりを大切にしています。今年度は地域の保育園との交流会を行い、園児達とのふれあいを通じて地域との繋がりの場が増えました。医療面においては、併設の診療所・介護施設と連携を図ることで、必要な医療が受けやすい条件が整っています。また、法人内には、研修などを企画する部署があり職員が自己研鑽に励みやすい環境となっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「老人保健施設希望の杜」「デイケア」「きぼうの杜診療所」が隣接する1ユニットのホームは、七つ森の山並みが真近に迫り、田圃や畑の風景が残る住宅地に在る。近隣には国道4号線沿いに大型店舗もある。入居者本人のやりたい事・感じている事を、その人の権利として出合いを大切にしている関わりを物語風(ナラティブ)に捉えている。介護度が高くなってきている入居者が多い現状であるが、緊急時には老健との協力関係が構築されており、医療と介護の両面から支援をしている。運営者の理解が深く、職員はキッズヘルパー制度を利用し夏休みに子連れでの出勤をしたり、待遇面等々職場環境に恵まれ活き活きと働いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「けやき」

)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取りまとめた形で理念・運営方針を作成し、実践に繋げている。それぞれを玄関・食堂に掲示し周知を図ると共に、折に触れ話すようにしている。	運営理念と、毎年見直しをする運営方針があり、今年度は「学び」を掲げている。忙しいことを言い訳にせず、入居者との日々の関わりの中で本人の得意とするところを継続し、職員も一緒に行うことを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに可能な限り参加できるように心掛けている。町内会には参加していないが、運営推進会議や畑仕事を通じて地域の方との交流を図っている。特に今年度は保育園との交流を設け交流の場が増えてきている。	園児との交流、夏祭りのかき氷や夜の花火大会見物を楽しんでいる。隣の畑の持ち主からアドバイスと協力がある。町内会長の尽力に依り、地域との交流が広がり地域密着型のホームであることが認知されつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、敬老会に合わせて家族会を開催していたが、都合が合わず今年度は開催できなかった。遊びに来られる近所の方に対して認知症の理解についてアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の生活の様子をスライドショーにまとめて紹介することで、より理解しやすいように取り組んでいる。水害時の対策や吉田川の河川工事の説明会の報告など情報の共有に努めている。	定期的に双方向的な会議が開催され地域の情報を得ている。過去の豪雨による吉田川氾濫時に、一部床上浸水の被害があった事から、5ヵ年計画で着工した河川拡大工事が進行中等の情報交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での交流が主であるが、介護保険更新の手続きなどは郵送せずに保険福祉課に出向くなど、協力関係を構築できるように意識している。	運営推進会議で災害時対策のアドバイスをもらっている。遠方に住んでいる家族から親の病気と生活保護認定調査選考等の相談を受け、役場に相談をし解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことにより生じる様々な弊害を理解し、拘束をしないための代替案を考えながら実践している。例えば玄関や勝手口の鍵は日中は施錠せず、夜間のみ防犯の観点から施錠している。	拘束しない代替案として、入居者ごとに違うメロディのセンサーチャイムを使用し、転倒防止に配慮している。現在7名が使用しているので、居室での動きに作動し終日頻繁に鳴るチャイム音で、職員は入居者の動向を把握することができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止に関する研修を受け、職員にどのようなものが虐待にあたるかや虐待防止に対する考え方を伝えている。また、年1回は併設の介護施設と合同に「不適切ケア」についての研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、法人内の研修に参加した職員が伝達講習を行う形で周知している。日常の生活においては、意志を尊重しできる限り制約をしないことで権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間を取り、詳細について理解しやすいように説明することを心掛けている。また、ご本人や家族の入居前の不安をできるだけ取り除けるよう説明し納得の上で入居いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に寄り添う関わりの中から想いを引き出すよう努めている。ご家族については状態の変化を逐一報告するなど、面会時には状態の報告とご意向の確認を積極的に実施している。	面会時・状態の変化があった場合・ケアプラン作成時に意向を聞いている。家族からの要望で、洋服は自分で選べるように本人の目に付き且つ選びやすいように、簡易のハンガー掛けを利用し満足感を得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員との面談や月1回のスタッフミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。法人としても、仕事と職場のアンケートを年2回実施して意見を反映している。	意見から居間の照明の明暗に配慮し、活動的な時間帯は明るく、夕食後は少し落として寛いでいる。36項目に及ぶアンケートを実施した。育休が1年半から2年に延長した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内にはナラティブRBA「理念に通じる現場の物語」という取組みがあり、事業所を表彰するなど働きが形として認められやすい環境となっている。また、労働条件の変更時には都度丁寧に説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の育成プロジェクトに添って実践しているほか、年2回の目標管理(面談と評価)を行っている。また、可能な限り法人外の研修を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との合同研修のほか、地域医療情報交換会への参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、安心してサービスを利用できるように、話し合いの時間に重点をおいて、密に実施するようにしている。また、入居後は環境の変化など、重要な時期と考えており、関わりを多く持ち信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後の相互理解に繋げる為、重要な時期であると考えている。特に入居直後は生活の様子を電話でお伝えするなど密に情報共有を図り、できる限り不安が解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの相談時に、それぞれのニーズの確認を行い必要とされているサービスについて十分検討している。他のサービスも考えられる場合には、そのサービスの説明をすると同時に関係各所との連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が得意なこと・苦手なことを見極め必要以上に介入しないよう努めている。また、生活の場面で本人の得意としていることを継続できるよう、環境を整え、一緒に行なうことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月けやき新聞を発行しており、日々の様子をお知らせしたり、行事の際にはお誘いして積極的に参加を促している。また、外出や通院の際にも協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの美容室を利用したり、衣料品店に外出したりと関係性が継続できるよう努めている。また、馴染みの人や場所の話を意識的に会話に盛り込むことで、その感覚が途切れないよう関わっている。	家族が住むこの地のホームに遠方から入居して、今は馴染んで穏やかに過ごしている。かつての職場の友人の来訪や、散歩中に見つけた小さなお社にお参りしているうちに、顔馴染みになり交流を深めている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を尊重しながらも、必要時には職員が間に入るなどして、良好な関係性を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したとしても、「縁」は続いていくものと考えている。お看取りさせていただいた方についてもメモリアルコーナーを設置し、その方への想いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日課は設けず本人の生活ペースを大切にしている。自らの意向を言葉にして表現することが難しい方については、家族から情報をいただいたり関わりの中から見出すよう努めている。	本人が好んでやっていた家事・好きな映画や歌等を把握している。寝ている時間が長くなった方が、ベッド上でカーペンターズの歌を聴いたり、賑やかな環境を好む方は、ラジオを聴きながら過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らしについては、家族にバックグランド用紙を記入して頂いている。また、関わりの中で導き出せるように努め把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の重要性を理解し、些細な変化にも気付けるように関わりを大切にしている。日常のなかで得た情報は申し送りノートを活用し職員間の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思を尊重しながら、ご家族の意向をお聞きし、様々な視点からニーズに沿ったアプローチができる体制を整えている。年2回家族を招きカンファレンスを実施し、意向の確認と同意を得ている。	家族が参加するカンファレンスで、具体的なニーズを見出せる聞き方を工夫している。抽出したニーズや本人の出来る役割・医師からの服薬についてのアドバイス等も取り入れ、個々の現状に即した介護計画書である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人内にはナラティブRBA「理念に通じる現場の物語」という取組みがあり、事業所を表彰するなど働きが形として認められやすい環境となっている。また、労働条件の変更時には都度丁寧に説明を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が見られる際は、併設の介護老人保健施設の看護師や診療所の看護師の協力をいただき、可能な限りの医療的処置が行える条件下である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人には、大和町でのこれまでと変わらない暮らしが送れるよう、地域資源の情報に努めている。また、今後の活動範囲の拡大に繋げていけるようにしたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の医師がかかりつけ医となっており、連携が図りやすい環境である。必要時には、専門医を受診することで適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医は24時間対応で、老健と兼務の看護師からも医学的な視点でのアドバイスがあり医療面で安心感がある。仙台の専門医受診も支援している。「介護記録」と「診療記録」に記載し家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護老人保健施設の看護師や、診療所の看護師と連携を図っている。介護職員は状態の変化を報告し医学的な視点での助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は1名の方が入院されている。近隣の病院との連携に努めており、今後も継続した関係を図れるよう、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針について説明し了承を得ている。実際に終末期を迎えられる際には、改めて関わり方について話し合いの場を設け、最後までその方らしく過ごしていただけるよう配慮している。	重度化や終末期の対応について、書面で家族に説明し同意を得ている。看取りに対する職員の意識も高く、担当していた入居者の最期を家族と共に静かに看取っている。小上がりにメモリアルコーナーを設け、亡くなった方々の笑顔の写真に冥福を祈っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の介護老人保健施設との合同で、定期的に研修会を行なっている。また定期的に職員間での緊急時の対応を再確認し、日頃から看護師や経験のある職員より、対応について確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。非常食や備蓄品の準備を行い災害時に備えている。地域住民の方々とは、運営推進会議において議題に取り上げ、協力体制を築いている。	避難訓練での反省点や課題を簡潔に記録している。吉田川氾濫時には、地域住民の福祉避難所にもなっている老健にいち早く避難し難を逃れている。次回の訓練から地域住民の協力を得られる体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重すべき目上の方であるという認識のもと、生活歴や性格を考慮し、お一人お一人への対応を心掛けている。排泄・入浴の際についても、さりげなく促すことでプライバシーに配慮している。	失敗した時は散歩に行きませんか、とさりげなく誘いトイレに行き、お茶をこぼしているので交換しましょう等とプライバシーを損ねない言葉がけで対応している。入浴とトイレ等は出来るだけ同性介助で支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意志表現がしやすい環境を作れるよう配慮している。言葉にし表現できない方に対しては、表情などから意向をくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考えて日課は設けず、その方の生活ペースを保つようにして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や交換時に一緒に衣服を選び、その人らしい身だしなみとなるよう配慮している。また、一緒に衣服を買いに行ったり馴染みの美容院へ出向くなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を作ったり、好みのメニューを伺うようにしている。準備についても、食材を切ったり味付けをしていただく、お茶碗を拭くなど、ご本人の能力に応じて日常生活に即した家事の取り組みに配慮し、食事そのものを楽しむ支援をしている。	野菜を切ったり盛り付け等の役割を持ち、活き活きと力を発揮している。誕生日に本人から寿司が食べたいとリクエストがあり、男性職員が職人風に鉢巻をして握り、寿司屋の雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの身体状況や嗜好に合わせて行っている。食が細くなってきている方には栄養補助食品の提供も行っている。また、定期的に併設の介護老人保健施設の管理栄養士に助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人がお一人で行える方についても、促しをして習慣となるようお声がけしている。口腔内の状態に応じて、かかりつけの歯科を受診したり、定期的に訪問歯科に依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用により、個人での排泄パターンの把握に努めている。介助の必要な方に対しては、全てを介助するのではなく、苦手な部分のみをお手伝いするようにしている。	ズボンの上げ下げを見守りながら、必要に応じて手助けしている。お腹に手を置き「困ったね」というのが排泄のシグナルの方もいる。自立している2名の方以外は、排泄表を見ながら個々の排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に牛乳やヨーグルトなどの乳製品を提供したり、午前中に適度な運動を取り入れるなどの工夫をしている。便秘の改善が不十分な方は、注意して観察し、内服での対応も併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴方法や時間などは身体状態に影響の出ないように配慮しながら、なるべくそれぞれの習慣や希望に添えるようにしている。	希望があれば毎日でも入浴は可能であるが現在はいない。一日おき・午前中・午後一番等、本人の希望に合わせて同性介助で支援している。季節の菖蒲湯・ゆず湯や入浴剤をその日の気分に合わせて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝環境に配慮し、安眠できるよう支援している。日中の活動も安眠に繋がると考え、そのバランスにも配慮している。また、身体状態に合わせた臥床時間にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の内服薬の作用と副作用が記載されている説明書を閲覧できるようにしており、誤薬予防マニュアルを作成し周知している。内服変更時には、申し送り・ノートを活用し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、各個人の想いを尊重している。楽しみの支援については、できる限り希望に添えるようにし、職員も一緒に楽しむことを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の想いを大切に、希望に添えるよう努めている。近所のスーパーや神社に外出しながら、近所の方との交流する機会をもてるように支援している。	季節のドライブや買い物・散歩をしている。入居者の介護度が上がって来ていることや、職員が一人削減されたことにより以前のように気軽に外出が出来にくい現状である。離設してしまった方を見かけた近所の方が、声掛けをして協力してくれたことがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が原則であるが、特にお金を持つことへの制限はしていない。希望があれば職員が金庫でお預かりすることとし、必要時に職員と一緒に買い物をして出納帳に記載し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、お年賀のみであるが、電話は自由に使用している。また、職員はそれを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設えについては、季節感に配慮した装飾を入居者と一緒に行なっている。室温や明るさなどについては、入居者の身体状況に合わせ、適宜確認しながら行っている。	加湿器と、濡れタオルを数箇所にかけて湿度は40～60%に配慮している。危険な物を置かないことや、入居者が動きやすいテーブル配置にしている。回廊型になっている窓から明るい日差しが差し込む廊下に花の鉢を置き、入居者が水やりの管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者が自分の居場所を作っており、その空間を大切にしている。また、関係性を築くことが苦手な方については、職員が仲介することで孤独にならないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、ご家族に馴染みの物があることの重要性を説明し、持ち込みに協力していただいている。また、その方の趣味にあった居室となるように、飾り物への配慮している。	天窓から柔らかい日が差し込み、整然として清潔感がある。ベッド脇に簡易の手すりを据えたり、塗り絵・習字・家族写真等を飾っている。嫁入り道具の日本人形やぬいぐるみを大切にしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の力を活用できるよう見極め、必要に応じて個別に支援している。転倒リスクの高い方のお部屋にはつかまり立ちしやすいように手すり等を設置したり、センサーを活用して迅速に対応できるよう努めている。		